

みる つくる
かたる

2005



VOL.34
NO.1 (通巻91号)

ART NEWS 千葉県立美術館

千葉県立美術館の野外彫刻

千葉県立美術館は昭和49年に開館し、平成16年に開館30周年を迎えました。この間、美術館では作品の収集とともに一万坪の敷地の半分以上を占める館庭の整備にも務めてまいりました。ここでは本館の野外彫刻の現状について御紹介します。

開館当初、美術館の周囲の施設はほとんど無く、やがて郵便局や警察署、法務局など官公庁の建物が建設され、さらにJR京葉線の開通、ポートパークやポートタワーなど公共施設が順次整備されていきました。美術館では周囲の施設や人の流れを考慮しながら比較的大きなこの館庭に芝生を巡らせ、年毎に充実してくる美術館の彫刻のコレクションを屋外展示すべく、計画的に配置してきました。

まず昭和52年に設置した藤野天光作「ああ青春」を手始めに、53年の大須賀力作「浅井忠像」など千葉県ゆかりの作家の作品が設置されました。さらに昭和55年、

美術館が彫刻家・木村賢太郎氏に、海に面した美術館にふさわしい作品を制作依頼し、館内でおよそ一年をかけて制作した石彫作品「海」も開館間もない頃の屋外彫刻のひとつです。

また本館では、昭和60年から全国公募の「現代日本具象彫刻展」を、平成9年度の第7回展まで開催しました。この展覧会は千葉県人口500万人を記念して整備される市内の「青葉の森公園」の中に彫刻の広場を設けるため、その設置候補作品を広く全国から公募するために企画されたものです。

この7回開催した展覧会には日本国内はもとより海外からも延べ900点近い作品応募があり、現代彫刻の動向を探る上で良い機会となりました。美術館ではこの展覧会の入賞作品を中心に数点の作品を収蔵し、その一部を千葉県立美術館の野外彫刻として新たに館庭に設置しました。こうした経過を経て、現在では24点の彫刻が設置されています。この中には、16年度新しく収蔵した木村賢太郎氏の作品も含まれています。

彫刻の配置はできるだけ作品が目立つように心がけ、屋内からも、レストランや休憩室からも鑑賞することができます。また特に子供たちへの安全性を考慮して、安定感のある作品を選定しています。来館者は彫刻を配した館庭を自由に散策し、作品に直に触れ、年齢を問わずゆったりとした時間を過ごすことのできる場となっています。
(金田雅成)



アート・コレクション展

アート・コレクション展で取り上げる作家・会期と作品は次のとおりです。

- 石橋武治 7月26日～8月28日 (洋画)
並木の道、白鷺のいる風景、早春、砂山、ほか
- 若木山 8月9日～9月11日 (日本画)
湧水、潜
- 石井雙石 8月30日～10月10日 (篆刻)
陶犬瓦鶏、午睡、月入斜窓暁寺鐘ほか
- 小堀進 平成18年1月31日～3月5日 (洋画)
花と海、ロンドンの朝、レマン湖畔ほか
- 東山魁夷と関主税 1月31日～3月19日 (日本画)
濶声、晨、秋深、春雪
- 深沢幸雄 3月7日～4月9日 (版画)
古い楽譜、民族の宴、家族、扉と訪問者ほか
- 石井林響 3月21日～4月23日 (日本画)
梅花書屋、唐美人、桃源、蓬莱
仙境之図ほか



石橋武治《水温む》

県立美術館コレクション展

千葉県社会教育施設管理財団主催により県立博物館を会場として当館収蔵作品の展覧会を実施します。

概要は次のとおりです。

- 「房総美術の四人の巨匠」総南博物館
7月21日～8月21日
日本の近代美術史上に多大な功績を残した房総ゆかりの作家たちの作品を紹介します。
- 「水を描く～小堀進の世界～」大利根博物館
8月12日～9月4日
佐原近辺の画家達に影響を与えた小堀進の作品を紹介します。
- 「美術館がやってきた」安房博物館
11月11日～12月11日
美術館のコレクションの中から鑑賞の希望の多い作品を中心に紹介します。
- 「東山魁夷の風景」関宿城博物館
1月1日～1月25日
東山魁夷の本画2点の他に、唐招提寺襖絵として描かれた《濶声》のリトグラフを紹介します。
- 「里山の風情」房総のむら 1月11日～2月12日

里山の風景やそこに住む鳥や小動物などの絵画作品や造型作品を紹介します。

- 「伝統の技の継承」上総博物館 2月4日～3月5日
木版画と伝統的な技により制作した美術作品などを紹介します。

企画展「近代陶芸の精華 宮之原謙」

今年度の企画展は、戦後、松戸市に築窯し官展を舞台に活躍した宮之原謙（1898-1977）の芸術を紹介します。

宮之原は、鹿児島県に生まれました。幼少の頃に東京に移り住み、早稲田大学理工学部に入学しますが、健康を崩し中退します。その後、健康に良いということで父の知り合いであった陶芸家・宮川香山（二代）の工房に通い、陶芸を始めることとなりました。

昭和4年第3回帝展に「赤鉄結晶竹文壺」を初出品し、昭和6年には「壁面照明銀河」を出品し特選に選ばれます。これ以降宮之原は、文展・日展と出品を続け、昭和31年に出品した「黒釉象嵌壺空」は、日本芸術院賞を受賞し、日展の主要な作家として活躍しました。また、昭和2年に、関東在住の陶芸家たちが集まり結成された東陶会には、創設から参画し、初代会長の板谷波山の没後は、二代目の会長を務めました。

宮之原は、象嵌と彩磁の技法についての研究を重ね、独自の技法を確立しました。作品を装飾する文様には、花鳥や魚などだけでなく、人物やモスクなどあまり取り上げられないモチーフを斬新なデザインで表現しました。79歳で亡くなる直前まで精力的に制作を続け、有田に出向いて制作した「金彩磁象嵌パラボラ大皿」は直径が130cmもある大作です。これらの作品を含め、今回の展覧会では、初期の作品をはじめ官展出品作品を中心に約100点を展示します。

会 期：平成17年11月26日(土)
～平成18年1月22日(日)

開館時間：午前9時～午後4時30分

休 館 日：月曜日（ただし、月曜日が祝日・振替休日に
当たる場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～平成18年1月4日）

入 場 料：一 般 500円

高・大生 250円

小・中生 無料

*年間パスポートを提示いただくと、一般200円、高・大生100円で入場できます。



宮之原謙
《象嵌磁鉢》

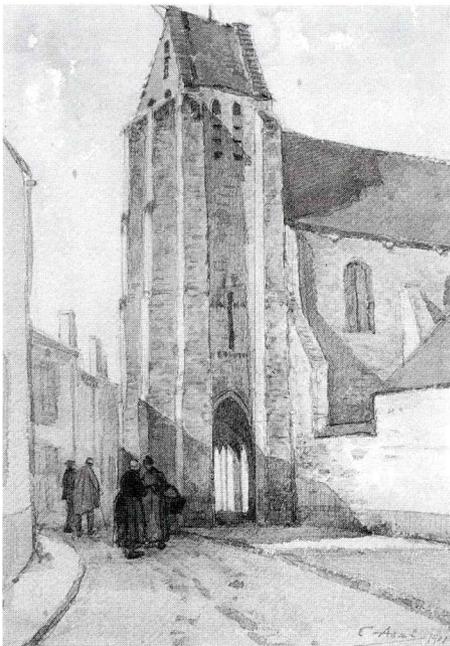
「コレクション50」から浅井忠「グレーの塔」

この作品は、浅井忠がグレー・シュル・ロアン（Gre-sur-Loing）の教会を描いたものである。

グレーは、フランスのパリ近郊フォンテーヌブローの森の南端に位置し、セヌ河の支流ロアン川沿いの小さな村である。日本の美術史上においては、1888年（明治21）に黒田清輝がはじめて訪れ、村の娘マリア・ビヨをモデルに代表作《読書》《婦人図（厨房）》などを製作した地として有名である。

フォンテーヌブローの森の周辺には、19世紀半ばから20世紀前半にかけ、画家、詩人、小説家たちが集まった多くのコロニー（芸術村）が存在した。その代表的なひとつが、ミレーやコローなどが住んでいたバルビゾン村である。この村に住みバルビゾン派と称された画家たちは、戸外で自然についての観察を行い、森や村の周辺の風景や農村生活を描いた。この自然主義的な描写は、次世代の印象派の影響も受けた画家たちにとって、光が重要な要素となり、光の微妙な変化が現れる水辺に写生地を求められた。川に面したグレーは、画家たちのコロニーとして最適な場所となった。

浅井は1900年（明治33）フランスに留学し、約2年間の滞在中グレー村を4度訪れている。この《グレーの塔》は、鉛筆で輪郭をとり、丁寧な色付けがなされている。さらに教会の建物との比率からすれば人物が大きく描かれ、人物は写真を活用していることが判明している。このことは、写生を基に、後日アトリエにおいて描かれた可能性を示唆している。（前川公秀）



浅井忠《グレーの塔》

ホームページ版 アート・コレクション展

只今、当館ホームページ上で、「アートコレクション」として、収蔵作品のなかから18点を選び、カラー画像に解説を加えた、鑑賞の手引きとして紹介しています。

このページを通じて、当館のコレクションの特色をお楽しみいただければ幸いです。



ルノワール《少女像》

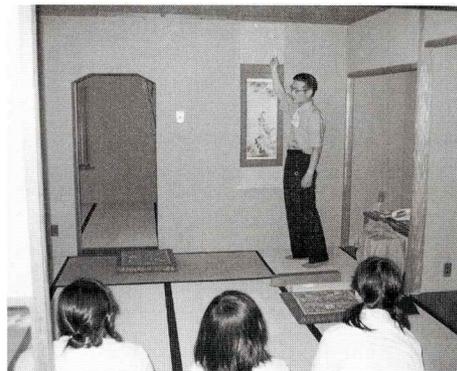
<主な紹介作品>

- フォンタネージ《十月牧場の夕べ》
- ミレー《垣根に沿って草を食む羊》
- コロー《ナポリ近郊の思い出》
- ルノワール《少女像》
- 中西利雄《トリエール・シュール・セヌ》
- ブルデル《聖母子》
- 香取秀真《鳩香炉》

一日学芸員体験

新学習指導要領の趣旨に鑑み、本館と学校教育との連携を密にし、両者が一体となって児童及び生徒が、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるための事業として実施します。

内容は、午前は美術館の役割や学芸員の仕事を理解するためのガイダンス、バックヤードを含めた館内施設見学、そして実技Ⅰとして野外彫刻の点検及び鑑賞。午後からは、実技Ⅱとして、美術工芸品の壺、掛け軸の取り扱いと保管の仕方を行います。



美術めぐりの旅

美術館を飛び出しての催しもので、毎年ご好評をいただいている、美術めぐりの旅。今年度は、「房州安房鴨川・千倉方面」を予定しています。

風光明媚な太平洋沿岸は、画家の絶好のモチーフとなり、画家ゆかりの宿で、作品誕生の部屋と数百点余の色紙画を鑑賞し、磯料理を味わいます。

また、食器を中心に作陶活動を行っている陶芸家の工房見学等を予定しております。

詳細は、当館普及課美術めぐりの旅係までお問い合わせください。なお応募者多数の場合は抽選となります。みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

開催日 9月17日(土)

定員 35名

参加費 7,000円

申込み方法

往復葉書に「住所・氏名・年齢・電話番号」をお書きの上、9月3日(土)までにご応募ください。

講師 上田靖之先生

定員 20名

費用 14,000円

申込み方法

「版画講座」希望と書いて往復葉書で応募。

キッズサマーコンサート

千葉県立千葉女子高等学校オーケストラ部により、「水」をテーマにチャイコフスキー作曲のバレエ組曲「白鳥の湖」やヘンデル作曲「水上の音楽」など、こどものための楽しいコンサートを行いました。

開催日時 平成17年8月6日(土)

14:00～・15:00～

[2部制]各30分程度

対象 子どもから大人まで

定員 自由参加

会場 千葉県立美術館 第7展示室

参加費 無料

第2回鑑賞教室

「芸術の秋・スタンプコレクション！」

*アート・コレクション「石井雙石」関連イベント

第1回鑑賞教室「むじゃキック」は、多くの参加者があり大変にぎやかに行われました。

色とりどりのガラスの作品を鑑賞したあとにガラス絵の創作体験をしました。

素敵な作品を手にも満足そうに帰っていくこどもたちの顔が印象的でした。

さて今回は、いろいろな形のスタンプを作ります。素材も様々で自分だけのオリジナル作品ができます。今回も芸術家のたまごたちの出現を楽しみにしています。

開催日 9月10日(土)

対象 小・中学生

定員 20名

会場 千葉県立美術館 第7展示室

時間 13時～15時

実技講座のご案内

内容 木版画や銅版画の基礎的な技法を修得し、版画の持つ魅力を味わう講座です。今年の年賀状は版画に挑戦してみませんか?

日程 9月14(水)15(木)21(水)22(木)23(金)24(土)27(火)28(水)29(木)30(金)10日間

利用案内

休館日 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し翌日休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

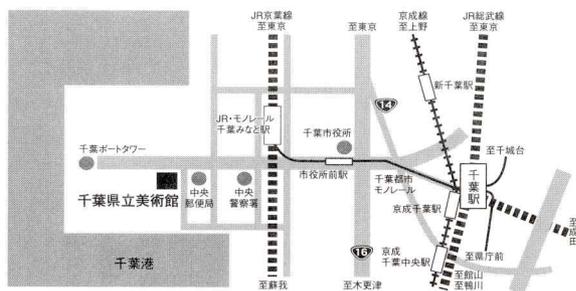
入場料 大人300円 高・大学生150円

(団体割引、年間パスポートなどがあります。)

65歳以上、小中学生無料)

(企画展は別料金となります。)

交通



JR京葉線・千葉都市モノレール 「千葉みなと駅」下車徒歩8分
JR総武線 「千葉駅」下車東口12番バスのりばから「千葉ポートタワー」行「県立美術館・中央郵便局」下車徒歩1分

〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.Cから約20分
〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.Cから約25分

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>